

高等教育コンソーシアム信州

信州大学が事務局を務める「高等教育コンソーシアム信州」とは、県内の8大学が加盟大学の個性を活かしながら、協力関係の中で教育研究資源を有効活用し、学生教育の成果と教育研究の還元とにより、県と地域の発展に貢献することをめざすものです。その活動は複数ありますが、ここではネットワーク配信による授業の共同利用（遠隔授業）と学生ピア・メンターの育成と活用に関する連携的取り組みについてご紹介します。

「遠隔授業」実施・受講報告

「つながる」嬉しさにハマる！遠隔授業

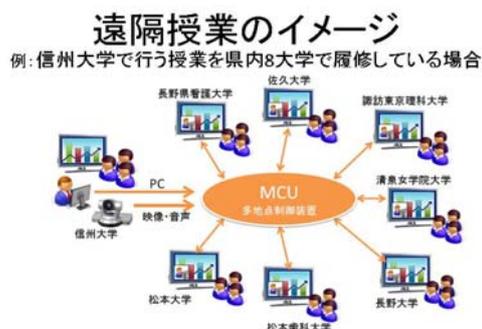
宮越幸代

遠隔授業とは、コンソーシアムに加入する8大学間を高速通信で結んで行う授業です。他大学から配信される遠隔授業科目を選択履修した学生にも、自大学での単位が認定されます。信州大学を拠点に、4月から各大学がそれぞれに遠隔授業を配信し、同時に各大学の遠隔講義室での受講が始まりました。

昨年、当方が「遠隔授業をしてみませんか？」というご提案をいただいた時、「希望される方が他にいらっしゃらなければ、できることを出来るところまでやってみよう」とお返事したのが始まりでした。着任したばかりの年になんと無謀なお返事をしてしまったのだろうと後悔しきりでしたが、会場となる中講義室4では大規模な工事が進み、あっという間に今年度前期に本学が配信する「国際看護学」（3年次選択；2単位合計15回）の配信がスタートしました。

しかし、機器操作やモニターを通してのやり取りに慣れない授業は大変きこなく、

「『異文化看護学』の授業が楽しかったから選択したのに、こんなはずじゃなかった！」という履修生のショックは、今思えば「前例なし、経験なし、練習なし」で挑んだ授業に居合わせなければ味わえなかった醍醐味でしょう。遠隔授業はHPを見たり、話を聞いただけでは絶対理解しえない、その場に居合わせた者だけが体験できる、臨場感あふれる「現場」なのです。ドキドキの初回授業を終わってみれば、「全然、先生らしくない！」と叫ぶ履修生、「教員の良さが活かしきれてない」という客観的かつ辛らつなコメントなど、これもまた普段の授業では得られない様々な反応がありました。しかし、最も懸念されたシステムの不具合も想定されたほどは起こらず、本学9名と信州大学学生2名（医学科・看護学科）を含む合計11名全員が無事履修を終えることができました。



出典：森下孟、新村正明、茅野基、鈴木彦文、永井一弥、矢部正之（2009）
大学間遠隔講義システムの構築と試行、日本教育工学会第25回大会
講演論文集、pp.423-424

システムに慣れてくると、学科やキャンパスを超えてほどよい緊張感を保ちながらの意見交換や、私自身、授業後に必ずコメントを寄せる履修生とのメールも楽しく、「こんなはずじゃなかった派」の履修生も本学内だけでは聞けない他大学・他学科・他学年の履修生の意見に、思わず身を乗り出す場面も・・・。「国際看護学」は基礎的な知識・技術を元に、日本以外の看護職者との協働や国外での看護実践の方法を考えられる授業にしたいと考えてきました。当方が遭遇した途上国ならではの事例もたくさん盛り込み、正誤にこだわらず、まず自分の意見を根拠とともに述べられるように設定します。ですので、多様な意見を聞きながら幅広い国際看護の対象を理解したり、広い視野に基づいてその場に必要な判断ができる力を養うには、キャンパスを超えた意見交換が大変効果的であると分かりました。

また、遠隔授業において、授業者との直接やり取りや教材の実物を手にできない受信側の履修生への配慮は今後の課題です。そこで中盤の授業で私が信州大学からゲリラ出演したり、授業の最終日には夏休みに入った信州大学の履修生に本学に登場いただいたり・・・と、遠隔授業には決まりきった厳しい規則があるわけではありませんので、様々なことに挑戦してみました。そして、この授業のモニター画面を通してしか交流のなかった履修生同士が「このあいだ課外活動で偶然出会って感動しました！」などというエピソードも。まさにこれらは、遠隔授業を通して知り合った教員・履修生同士が「出会い、つながる」喜びを実感する体験となりました。

遠隔授業「国際看護学」は、今年度の反省を活かして（「改善に努力すれば」と肝に銘じています）、次年度も開講させていただく予定です。「遠隔授業を一番楽しんでいたのは先生じゃないの?!」と指摘されつつも、実は授業の進め方や大学間の時間割調整、履修生の確保など解決すべき課題は多々あり、それらはコンソーシアム信州が主催するフォーラムや学会などを通して公表させていただいております。コンソーシアム信州が行う事業や遠隔授業の詳細は、次のHPからご覧いただけます。

<http://www.c-snet.jp/syllabus/>

いずれにしても、教員・学生ともにこんなに刺激的な授業は、滅多にできないものがあります。いかがですか!? 今度はあなたが「できることを出来るところまでやって」みませんか? 遠隔授業「国際看護学」は、ご関心のある皆さんの聴講も見学をいつでも歓迎しておりますので、どうぞお気軽にお訪ね下さい。せっかく整備していただいたシステムですから、当方は今後、コンソーシアム信州の枠にとらわれない自発的な活用も考えてみたいと思っています。



最終日には信大の履修生がサプライズ来学!

来年度はサモアからお迎えする留学生にも登場いただいたり、いずれはサモアにも配信！？そしてサモアからも？！と、世界をつなぐ遠隔会議システム活用の夢はどんどん広がります。でも、それより前に、来年度は履修生全員分の専用メガネを装着し、いよいよ私が画面から飛び出す「3D化」の方が先ですかね？！

(本学教員、国際看護学講座准教授)